

第3学年 音楽科学習指導案

1 題材名 音楽的コミュニケーションを意識してリコーダーアンサンブルをしよう

教材名 映画「君の名は」より RADWIMPS 「なんでもないや」

作詞・曲：野田 洋次郎 編曲：西岡 沙織

2 題材について

《学習指導要領とのかかわり》

A 表現 (2) イ 楽器の特徴を理解し、基礎的な奏法を生かして演奏すること。

ウ 声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して、表現を工夫しながら合わせて演奏すること。

〔共通事項〕 ア リズム 速度 旋律 形式

(1) 題材観

音楽は世界共通の言語とも言われている。それ故に、音楽を通して様々なコミュニケーションを行うことが可能である。例えば、演奏者から観客に向けてのコミュニケーションであれば、悲しい表現や喜びの表現など、音の持つ特性やパフォーマンスを用いて表すことができる。また、演奏者同士（吹奏楽・オーケストラ・アンサンブルなど）では、事前に演奏の方法などを話し合う言葉でのコミュニケーションをし、演奏中には非言語で曲の始めや終わり、テンポや強弱や曲想などの表現について指揮者の合図や、体の動きでコミュニケーションを図ることができる。これらを音楽的コミュニケーション¹と呼ぶ。本授業では、この音楽的コミュニケーションを積極的に行うことで、アンサンブルの楽しさをより味わうことができるのではないかと考えた。

本題材は、学習指導要領のA表現の内容(2)イ「楽器の特徴を理解し、基礎的な奏法を生かして演奏すること。」ウ「声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して、表現を工夫しながら合わせて演奏すること。」に関する学習内容である。小学校で既習のソプラノリコーダーだけでなく、アルトリコーダーやテノールリコーダー、バスリコーダーの特徴や特性を理解し、演奏すること。さらに、普段聴きなれない低音の深みのある音色を味わうこと。そして、音楽的コミュニケーション（言語ありコミュニケーション・非言語コミュニケーション）を用いて、工夫して合わせて演奏することをねらいとしている。また、平成33年度に完全実施となる新学習指導要領の授業改善の視点からみても、主体的で対話的というキーワードがある。音楽的コミュニケーションを積極的に行うことが、生徒たちの主体的な話し合いと活動になるのではないかと考え、取り入れていきたい。

今回の題材において重要視したい点は、

①事前に練習段階からどのようなテンポで、どうスタートするのか。また、誰がメロディーで誰が伴奏な

¹ 音楽的コミュニケーション：演奏面だけでなく、臨床心理や音楽療法においても用いられている。ここでは演奏面においてを取り上げる。合奏を合わせるために、音を良く聞いて合わせる事が大事だが、言葉や言葉によらないコミュニケーションも重要である。練習中は演奏のやり方を話し合うなど言葉でのコミュニケーションで情報が共有される。加えて、言葉によらないコミュニケーション（体や楽器の動き・アイコンタクト・表情・呼吸など）が必要である。体や楽器の動きでは、お互いのタイミングを計る合図としての機能がある。互いにジェスチャーを決め、合図を送ることができる。アイコンタクトは、テンポの変化や次の音の出だしのタイミングで合わせる事が多い。表情はタイミングというよりは、感情的なメッセージを送ったりするのに役立っている。表情によって曲想を変化することもできる。最後に呼吸や呼吸の音は、音の出るタイミングの手掛かりになっているようだ。（出典 なぜ合奏は「合う」のだろうか？ 『ON-KEN SCOPE 音楽×研究』河瀬論 著 2014）

のか、その演奏方法をしっかりと話し合い、音楽を作っていくこと。

②演奏中での非言語におけるコミュニケーションとして、体の動きを利用しながら工夫して合わせて演奏することである。

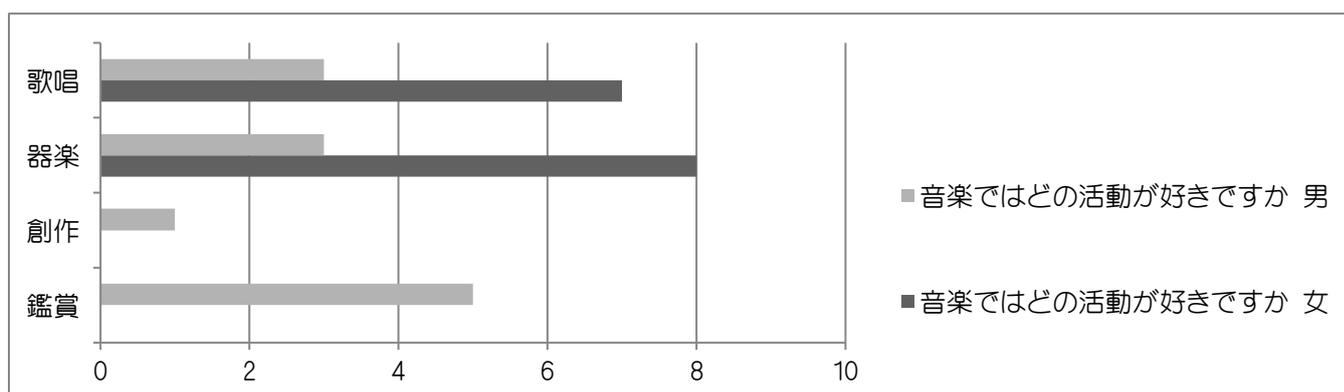
普段、何か人と合わせるとなると、掛け声をかけることが多い。また、合唱においては指揮者がいるため、指揮者に合わせようとする。今回の授業において、掛け声をかけて合わせるのではなく、この2点をしっかりと行い、アンサンブルを行うことで、より深い学びへと繋がるのではないかと考えた。特に非言語コミュニケーションにおいては、掛け声なしに演奏が始まり、音の縦が揃った状態で演奏できたときには達成感や感動が伴う。その喜びを十分に味わうことができるのではないかと思い、本題材を設定した。

(2) 生徒の実態 (3年B組 男子16名 女子15名 計31名)

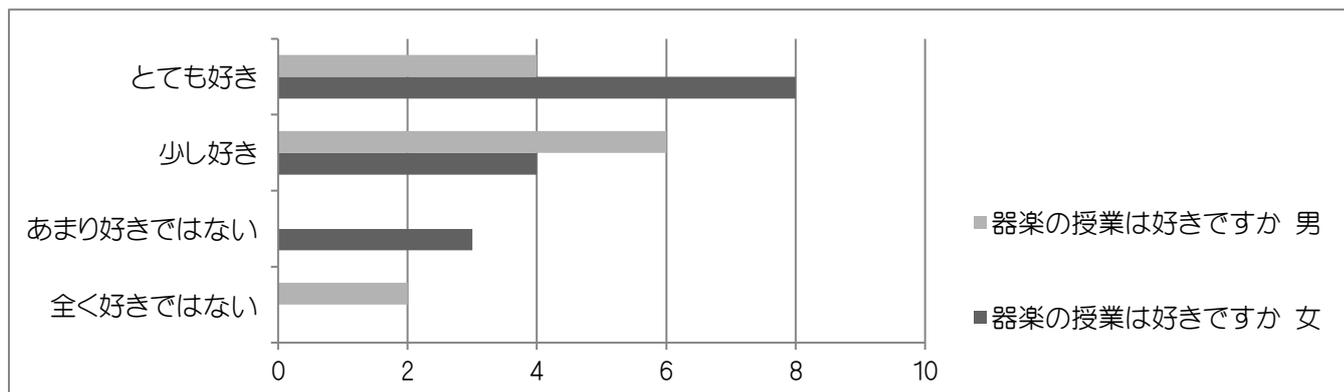
本校では、2年次に「バンドをつくろう」という授業で、器楽アンサンブルを行っている。しかし、その際はドラムが入り、テンポをスティックでカウントをとってから演奏し、常にドラムが鳴っているためテンポをつかむことができた。しかし、吹奏楽部以外の生徒たちにとっては、指揮者のいない中、音楽を合わせるということに対して、難しいと感じる生徒が多かった。回数を重ねるごとに、テンポ感が体に馴染み、多くの生徒が合わせることの楽しさを味わうことができたというワークシートに記述があった。今回はリズム楽器であるドラムが居ない中で、自分たちの体の動きでテンポを感じ取り、カウントの無い中で曲の終始を行う。この活動から、お互いの楽器の役割を理解したり、静寂から音が生まれる音楽のすばらしさを味わったりすることで、より工夫して表現をしようとする思いが強くなるのではないかと考えた。

事前アンケートは以下のとおりである。(男子12名 女子15名 計27名)

質問1 音楽ではどの活動が好きですか。



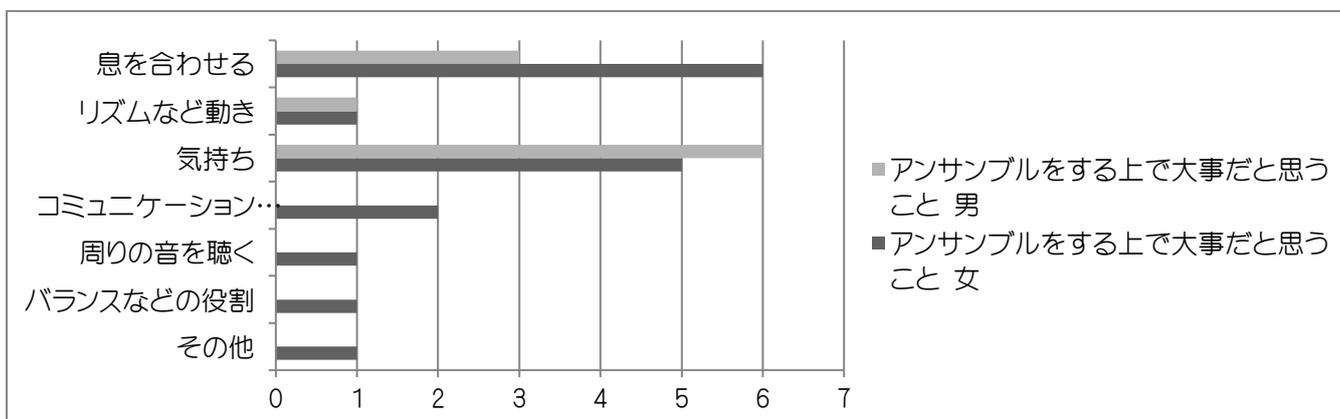
質問2 器楽の授業は好きですか。



質問3 もし、何でも楽器を演奏できる能力があったら…どんなことをしたいですか。

男子	女子
<ul style="list-style-type: none"> ・自分で曲を作りたい ・バンドを組んで演奏してみたい(2) ・一人で色々な楽器を使って演奏してみたい ・エレキでデスメタル ・みんなでどこかでコンサートをしたい ・好きなバンドのライブにでたい ・やりたいときに弾きたい曲を弾く ・動画の配信でここぞとばかりに自慢したい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドラムをやりたい(吹部に慣れて…) (2) ・ギターで色々な曲を演奏したい(2) ・バンドを組んで演奏してみたい(2) ・色々楽器を持ち替えて演奏してみたい(2) ・様々な人とアンサンブルしてみたい ・ピアノで色々な曲を弾いてみたい(3) ・ジブリなど落ち着いた曲を演奏してみたい ・やっていた楽器で色々な曲を吹きたい ・曲を作って弾き語り(2) ・吹奏楽部みたいに演奏したい(2) ・民族音楽など特殊な楽器を演奏したい

質問4 アンサンブルをする上で、一番大事だと思うことはなんですか。(複数回答)



<考察>

今回、男女で回答を分けたところ、男女で考えが大きく異なるところがいくつかあり、興味深い結果がでた。質問1では、男子はまんべんなく様々な活動を選んでいるが、女子は歌唱と器楽に偏りがでている。女子の大半は、鑑賞の授業や創作の授業では、工夫をしたり、感想を卒いっぱいに行ったりしているが、自らが主体的に動き、表現することを好む女子が多いと感じた。

質問2では、大半の生徒が好きと答えていたため、今回の授業でアンサンブルする楽しさをさらに味わってほしいと考える。それぞれの理由としては、以下の通りである。

男子		女子	
好き	好きではない	好き	好きではない
<ul style="list-style-type: none"> ・色々な楽器を演奏できるのは嬉しい (3) ・達成感がある (2) ・楽しい (3) ・経験を生かせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しいと思わない ・苦手 	<ul style="list-style-type: none"> ・達成感がある (3) ・楽しい・面白い (5) ・創作の授業がきっかけで好きになった ・普段しないことができるから (3) ・経験を生かせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・不器用だから ・ドレミがわからないので楽しくない ・難しい

男女共に、好きと答えた理由として、吹奏楽部以外の生徒は、普段楽器に触れる経験がないため、音楽の授業で様々な楽器に触れることに喜びを感じている生徒が多かった。また、できるようになったという達成感を味わうためと答えた生徒も多く、授業をきっかけに自己肯定感を高めることができれば良い。

質問3では、男女共に生徒の心の内を知ることができ、興味深い回答が多くあった。生徒は、何かきっかけがあれば、すらすらと演奏したり、ピアノを弾いたりしたいと感じていることがわかった。よって、授業において、様々な経験をさせてあげたいと教師側の心が動かされる回答だと感じた。

質問4では、男子は特に精神面で合わせようという傾向があり、女子は息を合わせてアンサンブルをすると考える生徒が多く居た。今回の活動である、音楽的コミュニケーションを使って合わせて演奏するという経験の中で、自分が回答したことが、実際やってみてどうだったかということを考えさせるのも良いとアンケートをとって感じてきた。

今回のアンケートを通して、生徒の多くは器楽が好きで、機会があれば様々な楽器をすらすら演奏し、表現したいと思っていることがわかった。また、アンサンブルをする上で、大切だと思っていることに、教師との考えのずれはあまりなく、今回の題材で、多くの学びや達成感を得ることができるのではないかと期待したい。

(3) 指導観

『なんでもないや』は映画『君の名は』で最後のシーンとエンディングで使用された RADWIMPS というバンドの楽曲である。以前、吹奏楽部において演奏をしたところ、生徒たちが好んで聴いていることがわかった。このことをきっかけとして、生徒の好む楽曲だからこそ、意欲的にアンサンブルに取り組めるのではないかと考え、リコーダーアンサンブルに編曲することとした。映画版の原曲ではアカペラの歌から始まり、間奏、Aメロ、Bメロ、サビと繋がっていく。今回のアンサンブルでは、生徒たちにとってソプラノリコーダー以外は初めて触れる楽器のため、アルト、テノール、バスリコーダーについては、指の動きが少ないように心掛けた。原曲のアカペラの後の間奏部分のコード進行をそのまま前奏とし、冒頭4小節だけで簡単に4重奏の響きを味わえるようにした。メロディーが入ってからは、原曲のギターのアルペジオをバス、テノール、アルトと分散させ、しっかりと息を合わせてアンサンブルをしないと伴奏にならないように編曲した。体の動きなどを利用して、お互いが合わせていかなければ、合わせることは難しい。だからこそ、合奏が合った時の楽しさを味わわせたい。

また、サビからは長くなってしまうため、①冒頭～サビ前、②サビ～エンディングと楽譜を2枚に分け、できたグループに配付することで、さらに興味をもって意欲をかきたてることができるのではないかと考えた。

授業では、リコーダーアンサンブルを行うにあたって、リコーダーの歴史や種類の説明、取扱いと手入れの仕方について触れる。さらに、2年次で行った「バンドをつくろう」の授業から発展し、指揮なし、掛け声や音での合図なしで行うアンサンブルの説明をする。練習段階でテンポ設定や合図の方法などを話し合っておくことを伝え、しっかりと音楽的コミュニケーションをさせたい。この活動を繰り返していくことで、伴奏なのかメロディーなのか、自分の役割を理解し、合わせて演奏することができていくのではないかと考えた。

活動の中では、個人練習、パート練習、グループ練習を行う。そのなかで、楽譜を読み取るのに時間がかかってしまう、または、うまく指を動かせない生徒が居た際には、パートごとを集めて練習する時間に個別にみていきたい。

3 題材の目標

基礎的な奏法を生かして、声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して、合奏する。

4 題材の評価規準及び学習活動の具体的評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
楽器の特徴（楽器の歴史や構造、奏法、その楽器特有の音色や響き、よさなど）、基礎的な奏法に関心をもち、それらを生かして演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。	音楽を形づくっている要素（リズム 速度 旋律 形式）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して音楽表現を工夫し、どのように合わせて演奏するかについて、思いや意図をもっている。また、その意見をコミュニケーションによってつたえることができる。	声部の役割と全体の響きとの関わりを生かした音楽表現をするために必要な奏法、呼吸法、姿勢や体の使い方を身に付けて演奏している。 音楽の始めと終わりを音楽的コミュニケーションによって合わせることができる。

5 研究の視点について

【視点2】 小中連携を関連させた題材構成（指導計画）

学習指導要領1目標は、低学年では「楽しくかかわり、興味関心をもつ」、中学年では「進んでかかわり、意欲を高める」、高学年では「創造的にかかわる」、中学校では、「興味関心をもち、豊かにする」、「生涯にわたって音楽に親しんでいく」というように、発達段階に応じた目標になっている。また、2内容A表現（2）器楽の活動は、以下のようになっている。

	低学年	中学年	高学年	中学校1年	中学校2・3年
聴奏・視奏の能力	範奏を聴いたり、リズム譜を見たりして演奏すること。	範奏を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして演奏すること。	範奏を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして演奏すること。		
楽曲に合った表現の能力	身近な楽器に親しみ、音色に気を付けて簡単なリズムや旋律を演奏すること。	音色に気を付けて旋律楽器及び打楽器を演奏すること。	楽器の特徴を生かして旋律楽器及び打楽器を演奏すること。	楽器の特徴をとらえ、基礎的な奏法を身に付けて演奏すること。	楽器の特徴を理解し、基礎的な奏法を生かして演奏すること。
音を合わせて演奏する能力	互いの楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。	互いの楽器の音や副旋律的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。	各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。	声部の役割や全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて演奏すること。	声部の役割と全体の響きと関わりを理解して、表現を工夫しながら合わせて演奏すること。

これをうけ、小中学校の指導内容の系統を踏まえながら、発達段階に応じて学習指導をしていくことで、生涯にわたって音楽を楽しむことができる児童・生徒の育成をしていく。

小学校高学年では、「各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。」とある。中学校では、その体験を生かし、中学校1年ではギターの弾き語りをした。歌に合わせてストロークをしたり、指を動かしたりして合わせて演奏をした。また、箏の授業では、「さくら」をピアノの伴奏を聴いて、音を合わせて演奏した。中学校2年では、バンドを組み、リコーダー、ピアノ、ギター、ドラムの楽器で、それぞれの役割や全体の響きを感じ取り、合わせて演奏した。中学校3年の本授業では、これまでの経験を生かし、さらに、声部の役割を意識して、音楽的コミュニケーションをとりながら合わせて演奏できるようにしたい。

6 題材の指導計画及び評価計画（5時間扱い）

次	時	○学習内容 ・主な学習活動
1次	1 ┌ 3 時	ねらい：楽器の特徴を知り、基礎的な奏法を身に付ける
		○ 楽器の歴史や構造を知り、基礎的な奏法を身に付けながら練習する ・ 楽器の種類や歴史、楽器の扱い方を知る。 ・ アンサンブルの仕方について学ぶ。 ・ 譜読みをしながら、同じパートのメンバーで合わせて練習をする。（楽譜前半）
2次	4 ┌ 5 時	ねらい：声部の役割と全体の響きとの関わりを理解し、工夫して合わせて演奏する
		○自らの役割（声部）を知り、合図や言葉を用いずに非言語コミュニケーションを図ってアンサンブルができるようにする ・ 同じパートのメンバーで合わせて練習をする。（楽譜前後半） ・ グループのメンバーで合わせて練習をし、上手に演奏するためにしっかりと話し合いや練習をする。 ・ 全体の前で発表をし、今回の学習についてまとめる。

7 本時の学習（2／5）

（1）本時の目標

○基礎的な奏法を生かして、どのように合わせて演奏するか、話し合い工夫する。

○声部の役割と全体の響きとの関わりを理解し、音楽的コミュニケーション（非言語）を使い合わせて演奏できる。

（2）展開

時配	学習内容と学習活動	○教師のかかわり ◆評価規準（評価方法）
5	・ 来た人から楽器の組み立てをする。	○不備がないか確認する。
	1 あいさつをし、本時の流れを知る。	○学習に集中して取り組むことができるようにしっかりとあいさつをさせる。
	正しい奏法で演奏し、言葉を用いずにアンサンブルをするためにはどのようにしたらよいか、話し合い、練習を重ねよう。	
2	音楽的コミュニケーションをする上で、大切なこと	○事前にコミュニケーションをとって合わせる練習をすること。演奏中にアイコンタクトや体の動きなどでコミュニケーションを行うことがで

	を確認する。	きることを伝える。
	<p>①音の合わせ方などを事前にしっかりと話し合うこと。 ②どのくらいのテンポで演奏をするか。 ③合図をする人の動き。(楽器を振って合図をする) ④曲の終わりに合図をする人を見ること。 ⑤アイコンタクトをすること。</p>	
5	3 基礎練習・パート練習をする。	○リコーダーの基礎的奏法を身に付けさせる。
15	・同じパートで集まり、パートリーダーを中心に練習する。	○ソプラノから順に集め、難しい運指やシャープのついている音が間違っていないか確認する。 ・ファ#を普通のファで演奏していないか確認する。 ・バスパートまで回ったら、それぞれのパートを回り、吹きづらい所などを一緒に合わせて練習する。 ◆楽器の特徴(楽器の歴史や構造、奏法、その楽器特有の音色や響き、よさなど)、基礎的な奏法に関心を持ち、それらを生かして演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。(音楽への関心・意欲・態度)〈観察〉
15	4 グループで曲の始めなどをどのようにスタートさせるか話し合い、ワークシートにメモをする。(本番までに何度も書き直しをして良いため、メモが良い) 〈工夫する点〉 【並び方】 誰が指示をだすのか 【合 図】 どのように行うか 【テンポ】 どのくらいの速さでどう示すのか	○誰が指示をするか、並び方や合図などを工夫できるように助言する。 ・実際に試してやってみるように促す。 ◆音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して音楽表現を工夫し、どのように合わせて演奏するかについて、思いや意図をもっている。また、その意見をコミュニケーションによってつたえることができる。(音楽の創意工夫)〈観察・ワークシート〉
	5 グループで合わせる。 ・話し合った結果を実際に演奏して確かめてみる。	○それぞれのグループを回りながらうまくいかなかった部分などは改善できるように助言する。 ◆声部の役割と全体の響きとの関わりを生かした音楽表現をするために必要な奏法、呼吸法、姿勢や体の使い方を身に付けて演奏している。 音楽の始めと終わりを音楽的コミュニケーションによって合わせる事ができる。(音楽の技能)〈観察〉
5	6 全体で合わせる。	○ピアノの伴奏で合わせ、本時の内容を確認する。
5	7 片づけをする。	○次に使う人のことを考えてきれいに片づけができるように促す。

<p>8 まとめに感じたこと、気づいたことを記入し、本時の内容を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合わせたときに出来なかったところを次の課題にする。 ・あいさつ 	<p>○プリントに学習のまとめをするように促す。</p> <p>○本時の学習を確認し、次時への意欲を高める。</p>
--	--